



# まちづくりの基本原則

## 情報共有の原則

市民及び市がまちづくりに関する情報を共有すること

市民が主体となってまちづくりを考え、市政に関することを検討するためには、まちづくりや市政に関する情報が必要です。市が保有する情報は、市民から管理を任されている情報です。また、市民からの情報を市が知ることで、まちづくりの課題に適切に対応することができます。

—— 例えば、古くなった公園を新しく作りかえるときの情報共有とは、どのようなものですか ——

### ◎ イメージの情報共有

どのような使われ方をしているか、近隣にはどのような年齢層の市民が多いのか、どのような公園施設が望まれているのかなど、市が持っている情報と市民からの情報とにより、判断していくこととなります。

### ◎ 課題の情報共有

新しく作りかえる公園がどのように利用され、その管理をどうするのかについて、考える必要があります。市民の考え方、市の考え方など、課題を含めて様々な情報を共有することが大切です。

## 市民参加の原則

市民の参加の下に市政運営が行われること

まちづくりや市政は、市議会や市長だけで行うのではなく、その過程に市民が参加することで、市民が主体となったまちづくりが実現されます。

—— 市政運営の過程に参加する方法には、どのようなものがありますか ——

### ◎ 市民からの意見募集

市の基本となるようなルールを策定するときや大きな施設を建設するときなどには、文書や電子メールで意見を提出することができます。

### ◎ 説明会、フォーラム、まちかどミーティング

市は、市政の課題について説明したり市民の意見を聴くために、説明会やフォーラム、まちかどミーティングを行っています。この中で、市の考え方を聞いたり、意見や要望を伝えることができます。

## 協働の原則

市民及び市がそれぞれの役割や責任に応じ対等な関係で協力すること

市民と市とが力を合わせれば、地域の公共的な課題に効果的に取り組むことができます。まちづくりのために力を合わせるときは、それぞれの考えや立場が違うことを理解した上で、協力することが大切です。

—— どのような協働が行われているのですか ——

### ◎ クリーンアップ・サポーターによる公園等の管理

公園や道路など一部の公共施設については、市民ボランティアによる清掃活動や花壇づくりが行われています。施設がきれいに保たれており、多くの利用者に喜ばれています。

### ◎ 「地区別津波避難計画」の作成

津波被害から命を守るため、一人ひとりが防災意識を高め、助け合い、迅速に避難するための計画を作りました。津波の浸水が予測される区域内の住民と市とが協力して、計画の作成を行いました。



# まちづくりの主役は市民です



市内に住所を有する者、市内で働く者、市内で学ぶ者



市内で活動する法人、団体等

市民は、それぞれの市との関わりにおいて、まちづくりを進めていく存在です。



地域のための活動



ボランティア



互いに協力

まちづくりでは、住んでいる地域のことを一番よく知っている市民自らが、課題の解決に向けて行動することが大切です。「自分たちでできることは、自分たちで行う。」ことがまちづくりの基本となります。

しかし、個人や団体だけで取り組むまちづくりには、限界もあります。

そのため、私たちは、選挙により市民の代表者として市議会議員や市長を決めて、

市政の運営を委ねています。

市議会は、条例や予算の議決をすることにより、市の仕事を決定します。一方、市長は、市議会で議決された条例や予算に基づいて、実際に市の仕事を行います。

市議会と市長とは、それぞれ独立した権限を持ち、相互に抑制し、調和を図りながらまちづくりを行っています。



# 地方自治制度の仕組みをみてみよう

